



谷口 和弥
議員
(拓政会)



「生まれてくれてありがとう、君の居場所はここにあるからね」。こんなメッセージを添えて、その年に生まれた子どもたちに手作りの木製椅子を贈る「君の椅子」プロジェクトが、活動開始から今年で10年目を迎えた。2006年、上川管内東川町で同プロジェクトは始まり、その後、上川管内の剣淵町、愛別町、東神楽町、中川町に広がりをみせ、今年からは長野県売木（うるぎ）村が参加して全部で6町村となっている。

地域の支え合う力が弱まる中で、子どもや高齢者の人格・人権が損なわれる事象が相次いでいる。この世に産声を上げた新しい命は、家族にとつてこのうえない財産であるだけでなく、地域社会においてもかけがえのない財産である。喜びとともに分かち合える地域社会をつくっていくうえで、たいへん参考になる事業であると考えている。以下同う。

(1)「君の椅子」プロジェクトにわが町も参加することを検討する、もしくは同プロジェクトと趣旨を同じくしてわが町の地域活力を生かした新生児誕生を祝福する事業の新設を検討すべきと思うがいかがか。

(2)わが町独自の出産祝金制度の新設に対する考えは。

問 新しい命を町民全体で祝福する町に
答 子どもの発達段階に応じた効果的な支援の
充実に努めたい

町長 (1)このプロジェクトは、

上川という地域が持つ森林資源や、全国的にも有名な旭川家具の職人等の人材を生かし、上川地域の風土を活用した効果的な事業であると評価している。

出産を祝う気持ちは、どこの市町村にも負けないつもりであるが、この世に生を受けた子が、その後、町民の皆さんの愛情を受けながら健やかに育っていくことが何よりも大切との認識に立ち、これまで国の制度に上乘せした妊婦健診料の助成、各種予防接種費用の助成、病後児保育など妊娠期から子育て期までの切れ目のない子育て支援策を実施してきた。



札幌芸術の森工芸館で今夏開催された「君の椅子」10年展の展示場風景

また、本年4月からは子ども子育て新制度のスタートを受け、学童保育の対象児童を6年生にまで拡大、子育て支援センターに子育てコンシェルジュを配置し育児相談の充実、保護者が病気などの時に子どもを預かる短期入所事業などを拡充した。

さらに、本年10月から子ども医療費の中学生までの無料化を実施し、経済的負担の軽減を図ることとした。

とした。

新生児の誕生に祝い品を贈ることについては、価値観の多様化により必ずしも全ての方に受け入れられることは難しいと考えられることから、町としては、引き続き幕別町次世代育成支援対策地域協議会等の意見を聞きながら、安心して子育てができるまちづくりに取り組んでいきたい。

(2)出産祝い金制度については、子育てにおける経済的負担を軽減し、かつ定住人口の確保と増加を図ることを目的とした施策として、十勝管内では9つの自治体で実施されており、第3子以降の祝い金を増額している自治体が6町村あり、多子世帯に対して手厚い対応がされている。

本町の多子世帯への支援としては、今議会に幕別町へき地保育所条例と幕別町忠類へき地保育所条例の一部を改正し、保育料を減額するとともに、常設保育所と同様に、第2子は半額、第3子以降は無料とすることにより経済的な負担軽減を図るべく提案をした。

祝い金という一過性のものではなく、それぞれの発達段階に応じた効果的な支援を切れ目なく継続的に講じていくことが大切であると考えており、引き続き支援の充実に努めていきたい。